

一位をくれたおにぎり

加須市立種足小学校 四年
眞 田 旺 揮

毎日食べてくる朝ご飯は、だいたい白米とおかずが出てきます。特にプールがある日や体育のある日は、お母さんが元気が出るようにと早起きをしてご飯をたいてくれます。いつも何も考えずに食べていますが、今年の運動会の朝食べたご飯は、忘れられないものになりました。

その日は、運動会だったので、6時の花火と同時に起きました。いつもならお父さんが起こしてくれませんが、自分で起きられました。きんちょうをしていたのだと思いました。自分の部屋から階段を下りて、リビングに行くと、台所ではお母さんがお弁当を作っていました。ぼくの小学校では、見に来てくれた家族と昼ご飯を食べることになっているのでたくさんのおにぎりやおかずが準備されています。ちよつとだけ見てみると、からげやハンバーグ、ウインナーなど、ぼくの好きな物がたくさんありました。野菜はあまり入っていないなかったのでほっとしました。少ししてお父さんが起きてきました。あまりきげんが良くない顔をしています。お父さんとは昨日けんかをしたので、あまり顔を合わせたくありませんでした。原いんはぼくにありました。お父さんが徒競走の組で「一位をとれるのか」と聞いてきたのでとっさに「無理」と答えたら、「やる前からあきらめているのなら運動会なんて行くんじゃない」とすぐおこられました。ぼくの徒競走の組にはいつもぼくよりも早い子が二人いるので、普通だったら三位になってしまいます。そんなこともあってお父さんとは朝ごはんを無口で食べました。ぼくはどうしたらいいか分からずに泣きそうになりました。そこに台所からぼくに朝ごはんを出しに来たお母さんが温かいおにぎりをくれながら言いました。「このおにぎりはいっしょうけんめいやっている子を一番にしてくれるおにぎりだから、食べてみてね。きつと今日は一位になれるよ。」ぼくはそれを一つぶ残らず食べてみました。少ししよっぱい味がしたのは泣いていたからだと思えます。食べ終わったところでお父さんが「じゃあ見に行つてやるか。」と言ってくれました。学校について運動会が始まるとすぐに徒競走でした。ぼくの順番は4年生の最後から二番目の組です。ドキドキするかと思いましたが全然平気でした。本当におにぎりがきいたのかなと感じました。ぼくの番が来ました。ひとりまた一人と抜いていきとうとうゴールテープしか見えなくなりました。テープに向かって走りゴールをしました。一番でした。このときにおにぎりがぼくを勝たせてくれたのです。

お父さんがうなづきながら笑っている顔が見えました。ぼくもうれしかったです。本当にこまったときにお母さんが出してくれるおにぎりがぼくを勝たせてくれるんだと思います。